

平成30年度 学生海外研修報告書 (担当教員)

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名: 農学部/准教授

氏 名: 花城 勲

授業科目名	国際感覚を持つバイテク人材育成
研修先(国・地域) 滞在地	モンクット王工科大学トンブリ校(タイ・バンコク市) ゲストハウス(ヘリコニアハウス)
研修期間	平成31年 2月12日 ~ 平成31年 2月23日
〔研修の成果〕	
<p>法文2、工1、水産1、農5の計9名の学部生を提携校KMUTTに派遣して、バイテク関連の英語による講義を受講するとともに、ラン農園、味の素・アユタヤ工場、日本向け生鮮野菜輸出を手掛ける日系企業、食品市場などを視察した。これらの活動を通じて熱帯・亜熱帯地域における農業や食品産業の問題点や、その解決のためにバイテクを如何に実践的に活用しているかを学んだ。KMUTT国際コース学生(修士)を交えて行った問題発見解決型学習(Problem-Based Learning, PBL)では、「廃棄物ゼロ達成のために」をテーマに掲げ、両校の学生がそれぞれの国の問題点を提示し、解決策を話し合い、両校教員を含む参加者全員に対して派遣学生の全員が口頭発表をした。PBLの過程では当然すべて英語による討論、発表を行った訳であるが、KMUTT側参加者からは「コミュニケーションしようとする意志がお互いに有り、言語のバリアを超え、何より討論していて楽しかった」というコメントを頂いた。また、タイの歴史と文化や、今日の日タイ関係とその歴史を学ぶため、バンコク・その他の寺院やチャクリ王朝について学べる展示館、アユタヤ市内の日本人村、などを訪れた。これらの訪問・視察を通じて、タイにおける仏教や、タイ王国の成り立ちや王室と国民との関係、タイと日本との長い交流の歴史などを学んだ。加えて、食品市場では現地の食材や食品を実際に目にすることで現地の食文化について理解を深めるとともに、買い物を通じて市井の人々との会話と交流を図り、英語が通じなくとも意志疎通を図る経験を積むことができた。東南アジアの大都市バンコクを肌で感じた経験や、タイ人や諸外国の人々とコミュニケーションした経験は、今後、海外において、或いは地域において国際的な視野で活躍するバイテク・ビジネス人材となることを目指す学生にとり貴重な財産となり、語学や各々の専門分野の知識の習得などを継続する強いモチベーションとなった。</p>	
〔今後の課題〕	
<p>1~2年次学生の参加者が多く7/9を占め、基礎的専門知識の不足のためか、活動中に内容の理解がやや不十分である様子が見受けられ、高学年次学生の参加を増やす必要を痛感している。また、参加学生を早い段階で確定させ、英会話の自主学習の推奨や、英語で抵抗・躊躇なく発信する姿勢を身に付けさせたい。</p>	